

奥様女中

2024年 12/3(火)

武庫川女子大学 中央キャンパス

電話



スタッフ

- 指揮 藤村 匡人
- 演出 唐谷 裕子
- ピアノ 多田 美晴

- 舞台監督 西川 まゆみ
- 照明 澤井 敦治（賛助）
- 音楽指導 福原 寿美枝

キャスト

～奥様女中～

- セルビーナ
- ウベルト
- ヴェスポーネ

- 玉川 七彩
- 奥川 幸一（客演）
- 平郡 若奈（3年）

～電話～

- ルーシー
- ベン

- 坂田 佳奈英
- 福嶋 勲（教員）

お手伝い

《照明》

- 金谷 亜美（3年）

《字幕》

- 村上 瑞月（3年）
- 高瀬 日向（3年）

《舞台転換》

- 新居 明果（3年）
- 高山 桜雪（2年）
- 川田 音華（2年）

《譜めくり》

- 栢原 実央（専攻科）

《ベル》

- 但馬 祥音（専攻科）

- 楠 和音（2年）
- 水上 真奈（2年）
- 濱田 咲来（2年）



奥様女中

1 幕 ウベルトの部屋

舞台は金持ちで頑固な老人であるウベルトの屋敷。

ウベルトは女中のセルビーナが朝食を持ってくるのを待っています。しかし、待てど暮らせどセルビーナはやってきません。苛立ったウベルトが従僕であるヴェスボーネを迎えにやると、セルビーナの怒鳴り声が聞こえてきました。

彼女はウベルトに育てられた恩があるにも関わらず、「奥様として扱われたい」と言って屋敷の主人であるウベルトのことさえも粗雑に扱います。朝食はまだかと言うウベルトに、悪びれるどころが「食べたのを忘れたんじゃないですか?」と言い、外出までも禁じます。我慢の限界だとウベルトがヴェスボーネに自分の結婚相手を探して来るように命じると、奥様になりたいセルビーナは「結婚相手はもちろん私ですよ。」と彼に迫ります。

2 幕 ウベルトの部屋

セルビーナはウベルトと結婚するためにヴェスボーネを味方につけ、作戦を開始します。今度こそ外出しようと現れたウベルトにセルビーナは気性の荒い男と結婚が決まったと伝え、「私を忘れないで」としおらしい態度を見せます。そんな姿にウベルトは同情し、少しずつ彼女に惹かれ始めます。

そこに婚約者テンベスタ（嵐）氏として変装したヴェスボーネが現れます。セルビーナの通訳で多額の持参金を要求されたウベルトは怒り狂いますが、テンベスタはさらに持参金の支払い、もしくはセルビーナとウベルトの結婚という二択を突き付けます。手塩にかけて育ててきたセルビーナが目目の前の気性の荒い男のものになるくらいなら、自身が一緒になるほうが良いだろうと決断し、彼女との結婚を誓ってしまいます。計画がうまくいった二人は婚約者の正体がヴェスボーネだと明かし、ウベルトは騙されたことに気がきますが、そのままセルビーナとの結婚を認め、ハッピーエンドの内に幕を下ろします。

電話

～ここは 1947 年"アメリカ"ルーシーのアパートでの話～

これから旅に出るベンは出発前に恋人のルーシーにプロポーズをしようとアパートへやって来ます。

しかし、告白をしようとすると、2 人の間を邪魔するかのように電話が鳴り、ルーシーはつつい長電話をしてしまいます。

列車の時刻が近づき、ベンは諦めてアパートを後にします。ようやく電話を終えたルーシーはようやく彼がいないことに気がつくりますが、「なぜ旅に出かけるためにここにやってきたのか…」と不思議に思っています。

そこに再び電話が鳴り響き、おめかしをして受話器を取るとベンの声が聞こえます。

さあベンは無事にプロポーズをすることができるのでしょうか？